

令和7年度長野市スポーツ推進審議会（第1回）会議録

日 時	令和7年7月16日（水） 午後1時30分～午後3時30分
会 場	長野市役所第一庁舎5階 庁議室
出席者	委員10名、オブザーバー1名、事務局10名
次 第	1 開 会 2 あいさつ 3 会長及び副会長の互選について 4 議 事 (1) 令和6年度事業実績及び令和7年度事業計画について (2) 社会体育館の利用料について 5 そ の 他 6 閉 会
議 事	（議事進行 会長） 議事(1)：令和6年度事業実績及び令和7年度事業計画について <u>事務局より、資料1の施策1-1, 1-2について説明。以下、質疑応答。</u> F 委 員：総合型地域スポーツクラブは、具体的にどういう範囲のものを指すのか、またクラブ数はどれくらいなのか、教えていただきたい。 事 務 局：総合型地域スポーツクラブについては、多世代多種目多志向、すなわち、世代を超え、1つの競技にこだわることなく様々な種目を、様々な志向の方々に提供する団体のことを指している。 F 委 員：中学校の部活も地域移行が進み、クラブ活動のようにになっているが、あのようなものも含まれるのか。 事 務 局：総合型地域スポーツクラブは資格要件を満たした団体に限られ、現在長野市では5つの団体が活動している。 E 委 員：補足すると、スポーツに限らず吹奏楽などにも範囲を広げており、学校と協力して活動をしている。地域移行でクラブ化したところにメンバーが指導者として入り、会員制の中で少しずつ範囲を拡大している。 オブザーバー：夜間や休日にスポーツ教室を開催した、とある。働き盛りの人達向けに研修等を実施するなら夜しかないと思えるが、スポーツ教室を夜に実施したことにより、何か変化は見られるかお聞きしたい。

事務局：夜間に移したわけではなく継続的に夜間に実施しているため、変化というものは感じていない。

I 委員：学校教育の立場からになるが、部活動の地域移行については、教育委員会やスポーツ課、文化芸術課の皆さんにも協力的に進めていただき、非常にありがたい。また、それ以外にも小中学校に対して色々と手を入れていただき、非常にありがたいことであると感じている。これからのスポーツを支えていく子供たちにとって、スポーツの楽しさの入口をしっかりと保証していくことを引き続き大切にしていっていただきたい。

我々教員の課題でもあるが、中学校入学と同時に誰に対しても開かれていた部活動という入口がなくなることにより、スポーツとの出会いをどのように作っていくかを一緒に考えていっていただければと思う。

G 委員：例を挙げれば P.2 になるが、資料を作成するに当たり、正確な検証のため、やりましたという報告だけではなく、目標と実績の両方を指標として出しているようにお願いしたい。

事務局より、資料 1 の施策 1-3, 1-4, 1-5 について説明。以下、質疑応答。

B 委員：市町村単位で障害者スポーツ協会を持つ自治体が減少する中、今も長野市は障害者スポーツ協会を設置し、手厚く障害者スポーツを支援していただき、本当にありがたいことだと感じている。一方で、障害者と健常者を分けて、健常者スポーツの中に障害者も含めることが共生社会の完成された形であり、健常者も障害者も含めて sports for all であってほしいので、資料内でも双方を含めた人数があってほしいと感じた。

もう一点、昨年から NAGANO スポーツフェスティバルとパラスポーツデーを一緒に実施している。分けていたものをまとめて実施し、健常者と障害者が触れ合う機会が増えたにもかかわらず、健常者と障害者共に参加者が減少するという残念な結果となっており、参加者を増やすための内容や広報を検討していきたい。皆さんにも是非ご協力をお願いしたい。

長野市の障害者スポーツ大会がなくなったため、障害者のスポーツ参加がさらに減るものと思われる。代わりに定期的な障害者の講習会などを充実させていただいているが、なかなか参加者が増えていかない。一般のスポーツ講座の中に障害者も参加できるような工夫をしていただければと考えている。

G 委員：B 委員としては、イベントの参加人数の減少はどこに原因があると考えているか。

B 委 員：障害者だけでなく皆で一緒にやりましょう、というノーマライゼーションの表れとして、スポーツフェスティバルとパラスポーツデーを同時開催した。より広報することで健常者と障害者共に参加者が増えていくと考えている。

事 務 局：パラスポーツデーは、障害者の方だけが参加するイベントではなく、健常者の方もパラスポーツと一緒に体験していこうという内容のものであり、結構な人数の方にご参加いただいていた。共生社会とは分けるのではなく一緒に、というような趣旨も踏まえ、NAGANOスポーツフェスティバルと1つの大会にしたが、2つのイベントが1つになったということもあり、参加者数の減少が見られている。今年の大会に向けて実行委員会会議の場でも話をしており、参加者が多くなるよう、広報の工夫などに取り組んでいきたいと考えている。

事務局より、資料1の施策2について説明。以下、質疑応答。

F 委 員：国際大会とか全国大会などの誘致は、波及効果が大きく、非常に良い取り組みだと思うが、全国レベルの大会でなくても、県外から一泊二日で参加者が訪れて開催されるものもあり、空いている体育館などを積極的に利用していくのはいかがか。

事 務 局：現状、ホワイトリングなど、大規模なスポーツ施設、体育館、アリーナはほぼ毎週大会が入っており、大きめの社会体育館を含めて大会を開催していただいている。県大会や北信越大会を長野市で実施していただくことも非常に大きな効果があるため、利用調整や施設の維持管理等も含め、なるべく多くの皆様にご利用いただけるように引き続き対応していきたい。

G 委 員：キッズドリームデーは子供たちからの評判がすごく良く、行くのを本当に楽しみにしており、帰ってきた際も嬉しそうにしていた。サッカーもあればという話になったが、今年はパルセイロでも実施するという事で、是非お世話になりたい。自分でプレーするだけでなく、スタジアムの雰囲気を感じながら本物のプレーを見るという経験は、生活を豊かにするものであり、小さい子供たちに貴重な機会を提供してくれる取り組みは非常にありがたいと思っている。

事 務 局：キッズドリームデーの記載数値に誤りがあったため、改めて訂正させていただく。

G 委 員：スポーツの推進、スポーツを通じてどういうふうにまちづくりをしているか、という大きな目標に経済波及効果はついて回るものであり、皆さんの努力によって最終目標年度を前に達成ができたのは素晴らしいことであり、評価すべきことだと思う。

同時に、令和8年度の入場者数の目標値は36.6万人であり、市民全員が観戦に行くことは難しいため、リピーター率をどう上げるかが重要になる。経済波及効果にも影響すると考えると、リピーター率を上げるため、多くの方にファンになってもらう必要がある。優勝がかかった試合、相手チームのスター選手等の存在により、入場者数は大きく増加する。どうチームを底上げするかが重要になるが、市としてどれくらいの支援、出資をしているのか、データがあればお示しいただきたい。

事 務 局：チームへは出資と事業協力の部分があるため、どのような形で出せるか検討のうえ、改めて報告させていただく。

長野市としてプロスポーツチームを活用したまちづくりを掲げている。チームと市で協力し、地域貢献やファン獲得を進め、多くの方に観戦に行ってもらえるように環境を作っていきたい。

議事(2)：社会体育館の利用料について

事務局より、資料2について説明。以下、質疑応答。

F 委 員：小中学校の体育館の休日利用に関して有料化する可能性はあるのか。

事 務 局：現在長野市では、小中学校の体育施設も、学校開放という呼び方で、一般の市民スポーツ団体の皆さんにご利用いただいております。私どもの方では社会体育館の方を管理している。現在は第一段階として社会体育館の有料化について検討しており、学校施設を今後どうしていくかは、今後の課題と捉えていただきたい。

E 委 員：今後の進め方について、どのようなスケジュールをイメージしているか。

事 務 局：料金の水準や料金の区分と並行してスケジュール感についても現在検討しており、具体的なところはまだ申し上げられない。

G 委 員：コストの市民負担50%分は何に使われるのか。

事 務 局：資料掲載の金額は、空調設備の整備、トイレの洋式化、老朽化備品の更

	新など、全てのコストを積み上げた場合のものである。市民の皆様と市でコストの 50%ずつを負担し、申し上げたような整備を行っていく。 あくまで全ての整備を行うと想定した場合の金額であり、2700-3500 円という数字を 1 つの目安としながらも、実際は、市民の皆さんの利用状況や負担感などを考慮しながら、最終的なところを決めていきたい。 F 委員：ホテルやプロスポーツチームのスタジアムでは、平日／休日や日付別の需給に応じて料金設定を変えるダイナミックプライシングが実施されている。中山間地と都市部などで利用希望に応じて料金格差をつけるという考え方も案としてあるかと思う。 講評 オブザーバー：第三次長野市スポーツ推進計画もあと 2 年という中で、目標値に達しているものもまだ道程が長いものもあるかと思うが、県の計画についても同様である。県のスポーツ実施率は、全国の実施率に合わせて令和 9 年度の目標値を 70%としているのに対し、令和 6 年度時点で 48%である。令和 4 年度では 61%と長野市に近い数字であったが、調査方法の変更により数字が大きく変わっている。ちょっとした変化でこうした数字は変わってくるものだと感じている。 本日の質疑応答でも数字の分析に関するご指摘があったが、目標を達成できたら数値はどう見直すのか、目標達成だから現状を続けていけば良い、という話にはならない。 県の推進計画は対象期間の真ん中である今年 3 月に改正させていただいた。理由としては、中学校の部活動の地域移行、中体連の大会の一部廃止などスポーツ環境の変化がある。また、県の組織体制としても、スポーツ振興やパラスポーツの分野が教育委員会から観光スポーツ部へ移管となり、一般スポーツと障害スポーツ、観光とスポーツを一体として捉えてスポーツを考えていこう、という方向になり、現状の計画ではなかなか事が進まなくなってきたというのが実情である。 照らし合わせると市も同じような悩みを持っているように見受けられ、市と県で連携しながら進めていければと思う。 最後に、長野市を中心に、須坂市、千曲市において、第 66 回全国スポーツ推進委員研究協議会が 11/13, 14 に実施予定である。2-3, 000 人規模と想定され、市をはじめ会場の応援などにご協力をお願いしたい。 3 年後に控えた信州やまなみ国スポ・全障スポについても、準備委員会から実行委員会に移行され、今後準備がさらに加速していくかと思う。大会成功に向け、準備をよろしくをお願いしたい。 以上
--	--